

# 乙女高原が好き！2404号

## みんなの力で 25年目の草刈りボランティア

11月23日(祝/土) 記事：植原 彰

朝早く家を出て、林道を走っている途中で日の出となりました。日の出前後の2～3分ほどは遠くの山も近くの森もだいたい色っぽく見えました。朝焼けです。遠くの山が染まる、いわゆるモルゲントロートはよく見ますが自分のすぐ近くも橙色です。不思議な光景で、思わず車を停めて見とれてしまいました。その後、林道を注意深く観察しながら登りましたが路面凍結している箇所はありませんでした。これで今日参加くださる皆さんも安全にここまで来れるなど、ほっとしながらロッジに着きました。一人で準備を始めていたら、一人二人と見知った顔が増えてきました。多くの皆さんの協力を得て今日の大イベントを行う準備ができました。

スタッフの打ち合わせをする頃には、すでに多くの一般参加者も集まっていました。駐車場係は打ち合わせに参加せず、そのまま車の誘導をしてもらうことになりました。打ち合わせでは一日の流れや緊急事態への対応を全体で共有しました。朝の受付と豚汁の配給が一番混雑しますが、受付係以外のスタッフも応援していただき、てきぱきと受け付けが進みました。

はじめの会が始まりました。山梨市長の高木さんと、山梨県峡東林務環境事務所長の深水さんのあいさつがありました。お二人ともいつもの年より、あいさつの時間がだいぶ短かったです。今日は快晴ですが、風がとても冷たく、参加した皆さんの体調を考えてのことだったと思います。

続いて植原から日程の説明と諸注意を行ったのですが、今年の新機軸として参加されている団体の紹介をしました。どんな団体が参加しているのかを全体で共有するのは有意義だし、紹介された方が団体の皆さんのモチベーションも上がると考えたからです。以下、紹介した団体です。

- ・金峰前山恩賜県有財産保護組合
- ・北奥仙丈外二山恩賜県有財産保護組合
- ・倉科財産区
- ・西保下財産区
- ・水ing AM(スイングエイエム) 柚口浄水場の管理
- ・株式会社田丸 毎年、ゴミ収集車もボランティア参加
- ・山梨ロータリークラブ ロッジ前の看板、谷地坊主の看板を寄贈
- ・甲府城西高校の生徒の皆さん
- ・地元の笛川小学校・中学校の児童・生徒の皆さん
- ・乙女クラブ 草刈りボランティアの豚汁作りを担当している西保の皆さん
- ・山梨市観光課
- ・山梨県峡東林務環境事務所県有林課
- ・乙女高原ファンクラブ



さらに、「一番遠くから参加された方」の紹介も入れました。今回、国内では大阪からの中野さん、海外からはベトナムからのブ・ティ・フェン・チャンさんが「一番遠くからの参加者」でした。

いよいよ作業です。班ごとに分かれ、班長さんの指示に従って作業をしていきます。

なんにでもトラブルはつきものですが、朝、係ごとに道具を仕分けていたにも関わらず、「草運び班」に肝心の熊手が1本もなく、作業の前半は「素手で」草を集めなければならないことになってしまいました。草運び班の皆さん、本当にご苦労様でした。草運び班の奮闘で、田丸さんが持ってきてくださったパッカー車(ゴミ収集車)をフル稼働させることができました。この車に刈った草を押し込んで、残土処分場まで運ぶのです。刈った草には草の種が含まれています。ゆくゆくは処分場を「第二乙女高原」にしたいと考えています。

草原の広い部分は保護組合や財産区の方々が刈り払い機で刈っていきます。20年前は、それこそあつという間に終わっていましたが、さすがに人口減少と高齢化はどの地域・どの団体でも共通の課題です。草刈りボランティアを持続可能なものにするために、何か手だてが必要だと思いました。

レンゲツツジが混生している遊歩道「ツツジコース」エリアは手刈り班担当です。3箇所に分かれて、ツツジを傷つけないように刈ってもらいました。1時間ほど草刈り作業をしたら、今度は草運びです。刈り払い機で刈った草などをビニールシートに積んで遊歩道に敷き入れたり、田丸さんのパッカー車まで運んで積み込んだり

しました。パッカー車が現地に到着したら藁撒き班の指示で残土処分場に草を降ろして、広げていきました。

遊歩道のロープは事前準備で全て外してありました。当日は、ロッジの庭でもう一度巻き直し、整理してから倉庫にしまいました。これで来年もスムーズにロープを伸ばすことができます。

豚汁班は朝からずっと豚汁の支度です。肉とゴボウは藤巻さんから、野菜は三枝さんから提供です。ありがたい。お昼が近づくにつれて、いい匂いをあたりにまき散らしていました。

子どもたちの希望者はキッズ班です。乙女高原の裏山に大きなブナの木があり、私たちは「ブナ爺」と呼んでいます。ブナ爺は尾根に生えているため、根もとの土が崩れ、多くの根が「浮いている」状況でした。幸い、ブナ爺のすぐ下には林道が通っているので、林道に積もった落ち葉を集めて、大きな袋に詰めてブナ爺まで運び上げ、それを根元に敷いてあげるという作業をしました。ブナ爺に落ち葉のふとんをかけてあげる…というイメージです。

作業は、安全に、楽しくすることが一番大事です。疲れてしまったら「もう、おしまい」にして、休んでもらってもいっこうに構いません。

全体の作業が終わったら、刈ったばかりの草原内で記念写真を撮りました。今年の乙女高原の写真屋さんは三枝さんです。その場で終わりの会をし、ファンクラブ代表世話人の角田さんがお礼のあいさつをし、同じく代表世話人の三枝さんが諸連絡をし、終了しました。生徒・学生の皆さんで「ボランティア参加証明書」が欲しい方にはその説明。参加者全員におみやげ袋を渡しました。いよいよお昼、豚汁が食べられます!! おかわりをする人が続出でした。感想の中でも「豚汁がおいしかった」というのが一番多かったです。

今年、救護係の出番がありませんでした。とてもいいことです。

希望者には山梨市公用車で山梨市駅から送迎したのですが、意外と希望者が少なかったです。「足のない」中・高生などにたくさん利用してほしいです。

全部の片付けを終え、帰宅したのですが、ロッジの鍵がポケットに入っているのを発見。ロッジまで戻る羽目になりました。気づかないうちに疲れていたのだと思います。モルゲントロート(朝焼け)だけでなく、アーベントロート(夕焼け)でも、身の回りがだいたい色になる体験をしました。鍵を返し忘れてアンラッキーだったけれど、これってラッキー?



## 第22回 乙女高原フォーラム 開催

1月26日(日) 記事：鈴木 辰三

山梨市長のあいさつに始まり、ファンクラブの1年間の活動報告や乙女高原案内人養成講座の報告がありました。そして乙女高原フェロー認定式のあと、いよいよメインイベントの講演が始まります。今回のゲストは、訪花昆虫調査や植生調査などでいつも温かくご指導いただいている高槻成紀さんです。

テーマは「柵で困って10周年 ～虫も戻ってきた乙女高原～」

乙女高原では2010年頃から虫媒花が減少し、ススキ原になってしまいました。そこで小さな柵を設置してその内外を比較したり、草刈りの時期をずらす実験を、さらに2015年の草原を囲う広い柵設置後は訪花昆虫調査を再開しました。その結果、柵ができる前と比較して10倍もの訪花昆虫数が記録されたのです。

講演ではこれらの実験や調査の結果から得られた知見を、図やグラフや写真を使ってわかりやすく、そして楽しく説明してくださいました。講演後の質問コーナーでは68名の参加者から活発な質問がなされました。講演内容の詳細は次号に掲載しますのでご期待ください。



※フォーラムは山梨CATVにより収録され、3/7(金)～9(日)に放映されます。放映後、YouTubeで無料配信されます。

## 2024年度後半の訪花昆虫調査

●訪花昆虫調査 9月● ----- 9月14日(土) 記事：大堀道也

9月14日(土)の「訪花昆虫調査」に参加しました。この日の予定は「植生調査」でしたが、参



加人数と天気予報の塩梅から、翌日の予定と入れ替えての実施となりました。個人的には7月28日の養成講座以来の乙女高原だったのですが、里に下りたのか、もう冬支度に入ってるのか、昆虫の数がめっきり減って、7月の喧噪が嘘のように山はすっかり静かになっていました。

当日、9人の参集でしたので、フィールドを4班で分担しました。「訪花昆虫調査」ってどうやるのか、動き回る相手にビクビクでしたが、「メンバーの特性を見計らって」いただきまして、幸いにも高槻先生の助手格となり、F、G、L、Eコースで記録取り作業に従事することができました。

巻き尺を観察路のルートに敷いてから、ルート幅2mの中に生い茂るススキと夏草の枯れ模様の中で、アキノキリンソウやマツムシソウ、ノハラアザミ、ハバヤマボクチ、ノコンギク、ユウガギクなどの花を訪れる昆虫を高槻先生が距離ごとに次々と読み上げていくのを必死にメモします。そのテンポに負けまいと、単純作業のハズですが、正直、記録する側も慣れるのにちょっと時間が掛かりました。先生の読み上げる、ウラギンヒョウモン、キアゲハ、セセリチョウ、ハチ、ハエ、アブなど、自分で確認する余裕もなかったかな。慣れない中でしたが、ハバヤマボクチの総苞に一生懸命に潜り込もうとするマルハナバチや、花に集まるハムシ（米粒よりも小さい！）やガガンボに注視する余裕に巡り会え、なんとか高槻先生の熟練わざのおかげで時間内（ざっくり、午前90分、午後90分）に作業を終えられました。



空は、朝方は大きな積雲がいくつも浮かび（雲量8?）、外気温も19℃で高原の陽気（木陰は長袖モード）でしたが、お昼前後はかなり晴れ間が広がって汗ばむ場面もあり、その後には今度は腹の黒い雲が一面に広がる（帰りの西保では道路面が濡れてました）、変化のある山らしい天気でした。

次は？と言われたら、時季ごとのあるある植物を学習しておいた上で、やっぱり助手レベルかなと思ってます。なにしろ、動体視力・瞬間視ゼロの上に近眼老眼の難行苦行が予想されますので。

それでも、自然の風を感じながら、自然と向き合う作業をできたのは、楽しい時間でした（お昼休みの、くつろぎすぎてしまった雑談も）。昆虫調査は昆虫が日光を浴びられるタイミングで行われれば活動を把握しやすいという高槻先生のお言葉を信じて、また参加したいと思っています。

**【訪花昆虫調査の経緯】**訪花昆虫調査のルーツは、当時麻布大学の学生だった加古菜甫子さんが実施した調査です。2013年のことです。つまり、シカ柵設置前です。このときの加古さんのデータと比較することで、2015年秋に設置されたシカ柵によって訪花昆虫がどれくらい増えたのかを比較研究できるとの高槻成紀先生のご提案で、2018年8月19日に参加者3人で訪花昆虫「再」調査が行われました。2020年は8月に4回、2021年は8・9月に3回、調査をしました。

その後、これも高槻先生のご提案で季節ごとに調査することになりました。2022年には5～10月に月に1回ずつ計6回、昨年2023年には5～10月に月に1回ずつ+7・8月は2回の計7回、そして、今年2024年は2022年と同じく5～10月に月に1回ずつ計6回調査しました。これまでの調査のべ27日(回)、参加くださった人数のべ151人になります。

じつは…とても虫のいい話なのですが、高槻先生には調査のご指導だけでなく、得られたデータのパソコン入力から考察まで、一手に引き受けてやっていただいています。

第22回乙女高原フォーラム(2ページ参照)では、シカ柵設置後に行ってきた植生調査結果も含めて、訪花昆虫調査によって明らかになったことについて高槻先生にご講演いただきました。

## ● 訪花昆虫調査 10月 ● ----- 10月6日(日) 記事：植原 彰

5月から始まった月1回の訪花昆虫調査。今年最後の、6回目の訪花昆虫調査が10/6に行われました。じつは、予定日は10/5だったのですが、天候不順が予測されたので10/6に延期しました。そんなこともあり、参加者が高槻先生を含めて4名になってしまいました。でも、秋も深まる季節だったので、そもそも訪花昆虫は少なく、調査を無事に終わることができました。

朝、高槻先生を塩山駅にお迎えにいきました。空を見るとだんだん明るくなってきました。大丈夫だろうと思いました。ところが、標高が高くなるにつれて、雲ってきました。乙女高原に着くと、井上さんと芳賀さんが待っていました。ガスっています。こんな天気では虫もあまり動かないだろうと、少し天気の回復を待ってから調査を始めました。途中、明るくなることもありましたが、小糠雨(こぬかあめ)のミストにさらされることもありましたが、



お昼を食べてから調査を再開したら雨になるかもしれないと思い、お昼をずらして調査を続け、午後1時ころに調査を終え、ロッジの中で、みんなでお昼を食べました。

## 継続が大事！ 植生の定点調査

9月15日（日） 記事：植原 彰

前日の訪花昆虫調査に続けて、二日連続の調査でした。朝9:00に高槻先生、角田さん、加藤さん、植原の4人が集まり、調査を開始。

この調査は、2015年のシカ柵設置後、どのように植物群落が変化していくかを調べるために、年一回、9月に行っている定点調査です。定点は草原の中に10箇所あり、そこには目印の杭とポールがあります。同じ地点で調査しているので、毎年のデータを完璧に比べられます。

順番にポールを見つけては、各地点で調査していきます。まず、折り尺でコドラートを作り、10cm×10cmで出て来た植物を記録し、次に10cm×25cm、25cm×25cm・・・と、だんだん範囲を広げて、それぞれ初出の植物を記録します。1m×1mが終わったら、この範囲内で各植物の被度と高さを記録します。索敵範囲をさらに広げ、1m×2m、2m×2mで初出の植物を調べたら、終了です。どんなに小さな植物も見逃さずに記録しなければならないので大変です。時には、「この草、わかんないねえ」というのも当然出てきますから、「イネ科の仲間」とか「スミレの仲間」とか書くこともあります。このルーティンを全部で10回、繰り返すわけです。

なんと、この日は午前中で全部の調査が終わり、ロッジのベンチでゆっくりお昼を食べることができました。調査に参加された皆さん、ご苦労様でした。ありがとうございました。



## 小学生が次々と乙女高原に！！

● 笛川小6年 草刈りボランティア体験 ● ----- 11月12日（火） 記事：植原 彰

朝、焼山峠がとてにぎやかでした。今日は「観光地美化活動」の日。焼山峠はその集合場所だったので、たくさんの方が集まっていました。ちょっと車を停めてあいさつし、乙女高原へ。6年生を迎える準備をしていたら、角田さんが血相を変えて駐車場にきました。「路上駐車で、笛川小のバスが通れないかもしれない」

それは大変！ と、角田さんに焼山峠に戻ってもらい、事務局（観光課）に車の移動をお願いしていただきました。そんなことがあって、スクールバスは無事、乙女高原まで来ることができました。

6年生20人と、引率の先生方。そして、乙女高原ファンクラブからは角田さん、松林さん、渡辺さん、駒田さん、加藤さん、伊佐治さん、赤松さん、植原の8人が参加しました。はじめの会が終わったところで、3グループに分かれ、それぞれの作業場所に向かいました。

当初、県による事前草刈りをしていただいたエリアの草を坂の上まで運び上げ、そこで遊歩道への草敷き体験をしてもらう計画でした。でも、11/4に下見をしたところ、ここ(下)から上まで草を運ぶのは距離もあるし、高低差もあるので、とても大変です。しかも、ここ(下)の遊歩道に草を敷いてしまったら、田丸さんのパッカー車に積み込む草が少なくなってしまうし、遊歩道は敷いたばかりの草で歩きにくくなりそうです。そこで、草原上部の3箇所を選んで、事前に草を刈っておきました。そこを作業場所としました。

子どもたちと一緒に、事前に刈っておいた草をまとめて、ブルーシートの上に載せました。ブルーシートがいっぱいになったら、四隅に付けたロープを持って出発です。遊歩道の坂道を4人で力を合わせて登っていき

ました。ブルーシートは各班に2枚用意したので、8人が必要です。足りないところは先生やファンクラブのスタッフが入りました。きりがいい所で止まり、載せた草を降ろして敷きました。進行方向に直角になるように敷いていきます。こうしないと、歩いた時、草で滑りやすくなってしまいます。敷いた後は草がふわふわなので、足で何度も踏みました。そうしたら、草もなじんできて、いい感じです。

載せた草が無くなったので、作業場所に戻りました。「水を飲んで少し休んで」と言ったのですが、子どもたちはどんどん作業を始めてしまいました。働き者の子どもたちです。すぐに草が足りなくなったので、鎌の使い方を教えた上で、交替で草を鎌で刈って、その草をブルーシートに載せるようにしました。最初のうちはぎこちない感じで





したが、そのうち、どンドン鎌の使い方が上手になりました。

結局、ウエハラが属した班は、作業場所から遊歩道へ3往復、草を運んで敷き入れました。3往復目が終わったところで、「じゃあ、みんなで、どれくらい草が敷けたか見に行こう」と、刈り草を敷いたばかりの遊歩道を登りました。中には「気持ちよさそう」と寝転がる子も出てきました。遊歩道のかなりの区間に草を敷くことができました。大感謝です。

そのまま遊歩道を登って、「富士山が見える展望台」まで行きました。富士山が雲海の上に浮いているように見えました。山頂近くが白く見えました。初冠雪が解けずに残っていたのです。

去年もこの「ボランティア体験」を企画したのですが、雨天中止でした。従って、今回が笛川小学校にとって、ファンクラブにとって初体験でした。楽しく活動でき、しかも、雪の富士山が見えるというボーナスまでありました。

終わりの会では、ファンクラブを代表して角田さんからお話をいただきました。バスに乗って帰る子どもたちを見送りました。スタッフでお昼を食べ、午後から、遊歩道のロープ外し作業をしました。季節外れの暖かさで、作業をしていると汗ばむくらいでした。



### ● 笛川小3年 自然体験学習 ● ----- 11月18日(月) 記事：植原 彰

前日は雨だったので、道路のぬかるみを心配しましたが、大丈夫でした。今回の案内活動に立候補して下さった角田さん、岡崎さん、渡辺さん、加藤さん、植原の5人が朝9時に集合。打ち合わせや下見をしながら子どもたちの乗ったスクールバスを待ちました。9時半ころ、3年生21人と引率の先生方4人が到着。さっそく「はじめの会」をし、担当者の自己紹介。その後、4チームに分かれて、それぞれ草原の中で自然観察を楽しみました。今回、子どもたちの案内に5人も立候補して下さったので、4チームを編成。チーム数が多い分、一つのチームの人数を少なくでき、よりきめ細かい対応が可能となりました。平日になりますが、今後も「学校対応・学校連携」の機会は増えると思います。皆さんの積極的なご参加をお願いします。ちなみに、活動参加には「乙女高原案内人」を条件にしています。どなたでも、やってみたい方、子どもたちのために一肌脱いでいいよという方、乙女高原のために活動したい方なら大歓迎です。些少ですが旅費を準備します。

標高が1,700メートルもある乙女高原の11月18日は里の真冬と変わりません。いくら学校現場が忙しいからといって、こんな時期に来られても…と正直思っていました。いざやってみると、次から次へとネタが見つかるし、視点を変える面白さがあります。また、3年生は今年3回目の乙女高原なので、「前回と比べた」観察ができます。そんなこんなで、いや楽しいのなんの。私が所属している日本自然保護協会の自然観察指導員の合言葉「自然観察(会)、いつでも、どこでも、だれとでも」を体感する1日となりました。

見つけた観察ネタは、たとえばクロスズメバチの巣。このハチは基本的に地面の下に巣を作るので、巣が見つかるのは珍しいのですが、木の根が横に張った下に見つかりました。夏だったらハチも活発なので、近くで見るとは多少なりとも危険が伴いますが、今はもう気温も低いので、変温動物であるハチたちの動きは鈍く、間近に近寄って観ても、危険は感じられませんでした。後日(11/21)、周回のハチより一回り大きな女王らしいハチが巣から複数出てくるのを見ました。まわりのハチは巣の表面にいるだけなのに、女王?は出たら、すぐに飛び立っていきます。10匹以上の女王?の旅立ちが観察できました。



クロスズメバチの巣

観察ネタの二つ目はハサミムシの集団越冬。3年生の学習テーマは「乙女高原の昆虫」だそうです。子どもたちはキョロキョロしながら、昆虫を探しますが、そのキョロキョロは能動性を伴ったキョロキョロです。朽木があれば崩してみたり、石があればひっくり返してみたり。で、ロッジ前の鉄の板をめくったところ、中に10匹以上のハサミムシがいたのです。集団ねぐらなんですよね。コブハサミムシです。この虫は早春、お母さんが卵を産み、大切に守り育て、しまいには卵から孵った子どもたちに自らの体を食べ物として提供することが知られています。

「視点を変える面白さ」は、昆虫が送粉に来てくれたからこそ、虫媒花たちに今、実が実っています。実こそが昆虫が来た痕跡だということです。実やタネの観察をすることが昆虫の観察につながるわけです。というわけで、事前に準備した「花・実・昆虫カード」を使って、今、目の前にある実にはどんな花が咲いていたのか?を推測してもらうゲームをしました。

なお、草花は枯れているので、草原の中を少人数で歩き回っても自然へのインパクトはないだろうと判断し、班ごとに「草原ジャングル」の





中を歩き回って観察することにしました。「保存型の自然保護」をしている乙女高原で草原の中を歩き回るなんて今の時期しかできないことです。これも楽しかったです。

半日の自然観察はあっという間に終わってしまいました。バスに乗って帰る子どもたちを見送った後、みんなで、観察の様子を分かち合いながら、お昼を食べました。

帰りかけ、水があふれそうな林道側溝にたまった泥をかき出して、水があふれて凍らないようにしておきました。これで23日の草刈りボランティアで登って来た人も車がすべることなく安全です。

● 笛川小4年 自然体験学習 ● ----- 11月21日(木) 記事：植原 彰

「晩秋のこの時期でも楽しい観察会ができる!」ことは11/18の案内で腑に落ち、わくわくしながら子どもたちを待ちました。今回、参加して下さったのは角田さん、三枝さん、岡崎さん、加藤さん、植原の5名。例のごとく9時に集まって打ち合わせと下見をし、9時半ころ到着するスクールバスを待ちました。4年生19人と引率の先生4人がバスから降りてきました。

4年生の学習テーマは「乙女高原の植物」だったので、この時期に見られる草花の種子散布戦略を見てもらおうと考えました。綿毛で飛ぶもの、コショウや塩の卓上容器のような形をしていて、風が吹くと揺れて「上から」種がこぼれ、風によって遠くまで飛ばされるものなどを観察したのですが、子どもたちの反応は、私たちの想像を軽く越えました。子どもたちは、私たちが説明している草の実に、はじから「あだ名」を付けていくのです。そのあだ名が的確すぎて、笑ってしまうほどでした。思わず全部メモしました。

**【草の実あだ名クイズ!!】** 子どもたちが草の実にあだ名を付けました。なんの草花でしょうか? ( )内はヒント

- (1) ピーマン  
(ピーマンを縦にし、小さくする)↘  
(2) バナナ  
(皮のむき方が似てる?)↘



- (3) トウモロコシ →  
(とっても細身)



- (4) 柏餅 (ちっちゃい!)↘



- (5) コンペイトウ↘



- (6) トマト or 丸ナス  
(ミニトマトどころかマイクروتマト?!)↘



- (7) ドラゴンフルーツ↘



- (9) ヒトデ→



- (10) 裂けるチーズ↘



- (8) たこさんウイナー →  
(実の皮がめくれる感じが...)



- ←番外編・木の芽  
(11) 赤いタケノコ



- 番外編・キノコ  
(12) 納豆ご飯→



【答え】(1) コオニユリ (2) オオバギボウシ (3) クガイソウ (4) ヤマハギ (5) ヤマハハコ (6) ツリガネニンジン (7) ノハラアザミ (8) メマツヨイグサ (9) キリンソウ (10) ヤナギラン (11) レンゲツツジ 花芽 (12) チャダイゴケ(コケでなくキノコ)

この日も、「今日はト・ク・ベ・ツ。草原の中を歩いていいよ」ということにしました。草原の中はジャングル状態ですが、ヤツドリゼンマイの「ミステリーサークル」内に限っては、ヤマドリゼンマイの葉がしおれて地

面に倒れているので、歩きやすくなっていました。「あれ?、これ動物の糞じゃありませんか?」と一人の子。確かに、たくさん糞が見られます。かなり崩れていました。タヌキの?溜め糞だったのかもしれませんが。また、私のチームではなかったのですが、ウサギの糞を見つけて、大事そうにビニール袋の中に入れていた子もいました。見せてもらおうと、確かにノウサギの糞でした。

このように楽しく観察会をし、スクールバスで帰る子どもたちを見送りました。中には「笛川小をここ(乙女高原)に持ってきて、ここで勉強したい!!」なんて、うれしいことを言ってくれる子もいました。

この日も、子どもたちとのやりとりを振り返りながら、みんなでお弁当を食べました。午後からは草刈りボランティアの境界線にするビニールひもを張る作業をしました。ツツジのコースで走り去るノウサギの姿を見ました。まだ白くなっていませんでした。茶色というより濃いグレーでした。

## 【自然観察交流会】 乙女高原 冬の楽しみ!!

1月11日(土) 記事:井上 敬子

厳しい寒さが続いていて、乙女高原は日中でも零下という予報。防寒対策をしっかりと出かけた。牧丘の道の駅に集まったのは3人。植原さんの車に乗せてもらって出発。林道を登っていくにつれ、道路わきには雪、日陰は凍っているようなところもありました。

乙女湖のところで車を止めました。ダム湖は3分の2くらい結氷して白くなっています。見ていると不思議な音が聞こえてきます。鳴くような、ものが鈍くぶつかるような音です。大きな音もしました。氷の下で何かぶつかっているのでしょうか。金峰山は雪で真白。青空に映えています。柳平から先の林道は雪がうっすらと積もり凍っていました。運転には気を遣ったことと思います。

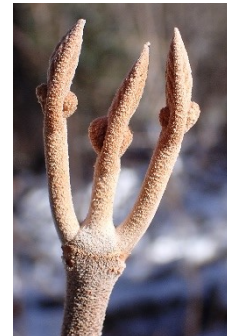
乙女高原に到着。気温は-3℃。草原はまだら状に雪が積もっています。草原に入ってみると、雪が解けて氷になったところと雪が残っているところ、刈った草の根元が見えているところとで、まだら模様になっていました。氷は薄くて、下が空洞になっており、端は丸いような複雑な形に解けています。氷の上は冷え込んで、下(地面のほう)が温かくて、下から溶けて上だけ残って氷になったのでしょうか。どのようにできたのか不思議な光景でした。スパイク付きの長靴を履いて、その薄氷や雪の上をバリバリと音を立てて歩きました。

冬の楽しみの一つは冬芽観察です。まずレンゲツツジ。枝の先端には赤い花芽が芽鱗(がりん)と呼ばれるうろこ状のものに覆われて、ろうそくの炎のような形についています。その花芽の下には葉痕(ようこん)と呼ばれる葉の落ちた三角の痕があって、中には維管束痕(いかんそくこん)がニコちゃんマークみたいでかわいいです。葉痕のすぐ上には葉芽が小さくついています。枝の所々にこの葉痕と葉芽がついていて、枝には細かい毛もついています。花の咲く時期にはあまり枝の様子など観察しませんでした。枝だけになったレンゲツツジはとてもおもしろい、かわいいです。

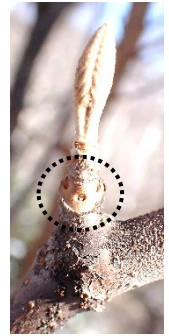
森のコースではオオカメノキを観察しました。この冬芽は対生(向かい合って出ている)で万歳しているように見えるのがかわいいです。裸芽(らが=芽鱗に包まれていない芽)で、寒さを防ぐために細かい毛に覆われています。ベージュ色でピロードのような感じです。葉芽には葉脈が見えていて、花芽は丸く擬宝珠(ぎぼし)のような形で葉芽の真ん中にあります。印象的なオオカメノキの冬芽です。



オオカメノキの葉芽



葉芽と花芽



顔に見える葉痕

鋭いトゲがたくさんついたハリブキもありました。先端にはえんじ色の固い芽がついていました。ニワトコの冬芽は細い枝の両側に対生しています。先端に芽はついていないので、上には伸びないで横に広がっていく樹木だと植原さんが言っていました。冬芽で樹木のでき方もわかるというのは深いですね。他にはウリハダカエデやミズナラの冬芽を観察しました。

展望台へのゲートは地面が凍って開けにくくなっています。二人で少し扉を持ち上げながらゆっくり開けて展望台に。富士山がくっきり、きれいに見えました。下の盆地は少しかすんだよう。富士山は白く光ったところと黒く影のようになったところがあります。黒いところは尾根のようで、雪が少ないので黒っぽく見えたのでしょうか。ヨモギ頭からは樹冠越しに南アルプスがよく見えました。白根三山や甲斐駒ヶ岳、鋸岳などがカッコよく、仙丈岳は真白。中央アルプスや八ヶ岳も真白でした。

ブナ爺さんの所へ降りていく途中のダケカンバの太い幹には、縦に1mくらい裂け目ができていま



した。寒さで裂けたのでしょう。葉を落としたブナ爺さんの枝は直角に曲がったり、カーブしていたり、くねくねしているのがよくわかります。どんな人生…でなく樹生を送ってきたのでしょうか。ブナ爺さんから少し下ったところにも太くて、幹の片側が大きく割れ、根元はごつごつして苔むしたブナがあります。植原さんいわく、ブナ婆さんだそうです→。水が森林道に出ました。木をつつく音がするので、探すとコゲラがいました。キバシリらしい鳥も。カラ類の声もしました。



林道はうっすら積もった雪が凍っています。動物の足跡がたくさん残っていました。冬のもう一つの楽しみはアニマルトラッキングです。動物にとっても林道は歩きやすい場所なのでしょうね。2つが重なったもの、真っすぐ一直線に進んでいるもの、道路を横切るもの、間隔の狭い細かい足跡が一直線に続いていると思ったら途中で二つに別れてしまっていたり。テン？キツネ？タヌキ？シカ？何が通ったのかな。どんなふう歩いたのかな、走ったのかな。想像するのも楽しいです。

雪の上に赤い実のほぐれたようなものがありました。これはテンの糞を小鳥がほぐして食べたのではということ。赤いのはツルウメモドキの実。肉食のテンがツルウメモドキを食べるのですね。しばらく行くと、雪の上に糞がたくさんあります。赤い色のもの、黒っぽい色のもの（ヤマブドウを食べたもの）、茶色いようなものなど。ここ



ツルウメモドキの実を食べたテンの糞(左)と、その散乱

はトイレかと思ったら、植原さんが「おおっ」と声をあげました。ガードレールの外・道路下にシカの死骸発見。もう背骨と足の骨と毛皮ばかりになっていましたが、動物たちにとってはごちそうがたくさん食べられた場所だったのでしょう。糞がたくさんあるわけです。動物たちの足跡を見ながら、凍った雪道をザクザクと音を立てて歩きました。

ロッジに戻って、玄関前で昼食にしました。風もなく、穏やかです。太陽のおかげで思いがけず暖かい。時々、太陽が雲に隠れることがありましたが、そんな時は雲の端がピンクや緑になる彩雲が見られました。

午後はツツジのコースを歩きました。太陽が南にまわって、草原の雪面は陽に反射してまぶしいです。青空をトビやカラスが飛んでいきました。ツツジのコースの山際は陽当たりが悪いので、雪がたくさん残っています。10cmくらい積もっていたのでしょうか。ここでは遊歩道の杭の上に残った雪の造形がおもしろかったです。上部表面は氷で内部は空洞のもの、上部が傘状で下が細くなってきたきのこ雲のような形になったもの、三段のきのこ雲のような形になったものもありました。フクロウがいたというモミの木を植原さんに教えてもらいました。フクロウが止まっていたという枝には、白い尿痕がありました。



谷地坊主を見に行きました。雪の中にボサボサ頭の谷地坊主がいっぱい。なかなか壮観です。ここでは水が凍らず流れていました。水に手を触れてみると冷たいけれど、びっくりするような冷たさではありませんでした。水は凍っていないので0℃より高いし、気温は0℃より

低いので、あまり冷たく感じなかったのかな。谷地坊主の近くから斜面を見上げると不思議な光景が。斜面が長く大きくえぐれています。まるでイノシシが土を掘りおこしたよう。土は30cm以上も盛り上がっていて、穴があいています。下側の土は下へ崩れています。穴の奥は霜柱が段々に見えているところもあるので、霜柱の仕業ですが、どんなふうにしたのか不思議でした。

ロッジに戻る途中、草原には土の小山がいっぱい。モグラ塚です。たくさんのモグラがいるのかと思いきや、1匹のモグラが50m四方くらいのテリトリーを持っているらしいです。冬は寒いから深いところにトンネルを掘るので、土の量が増えて、モグラ塚が目につきやすくなるとのこと。地下にはモグラの作ったトンネルが伸びているはずですね。

帰り道では所々に小鳥がいました。ホオジロ、カシラダカなどです。野鳥を見やすいのも冬です。おもしろいことがたくさん見られた観察会でした。もっと大勢参加してくれるといいですね。

## 【参加報告】 全国草原サミット・シンポジウム in おたり

10月4～5日 記事：角田 敏幸

山梨市の家を朝6時に出発して中央高速、長野道で安曇野 I.C で降り、一般道を会場である小谷村の白馬ア



ルプスホテルに向かいました。11 時頃会場に到着。ホテルで昼食をしてから会場に入る予定でしたが、会場にはレストランは無く、会場付近で昼食出来る所を探すも見つからず、白馬駅まで戻ろうとした所、白馬駅に向かう約 2Km 付近で蕎麦屋さんを発見し、昼食にありつけました。レストランや喫茶店は冬と夏のみ営業で、会場に来られた方は、事前に注文した弁当、駅前のコンビニのおにぎりを購入してロビーで食べていました。事前情報を調べておくべきでした。

12 時から受付が始まり、事務局から預かった乙女高原草刈りボランティアのちらしを受付に渡して会場に置いてもらいました（事前に事務局に許可を頂いています）。12 時 35 分にオープニングセレモニーがあり、小谷村小学校児童による校歌とふるさとの合唱を聴き、12 時 45 分から開会式があり、13 時 10 分から基調講演「カリヤスを刈る、葺く、雪国に暮らす知恵を探る」筑波大学名誉教授・安藤邦廣さん（日本茅葺き文化協会代表理事）と松澤敬夫さん（小谷村茅葺き師。多くの民家、文化財建築の茅葺き屋根の葺き替え、平成 22 年から伊勢神宮式年遷宮の茅葺き工事の指導をしている。現代の名工）の対談形式でカリヤスの分布、カリヤスの性質、刈り取り方法、昔の茅葺き屋根の葺き替え方法の話を行いました。

- ・3 集落 100 軒で、1 年に 2 軒の茅葺き屋根の葺き替えを行っていた
- ・葺き替えは 50 年に 1 度で、葺き替えの順番は無尽で決めていた
- ・共同茅場 4 カ所と各家の茅場で、毎年 100 束貯蔵。葺き替え時に持ち寄って使用していた
- ・茅場は蚕、牛馬を守り、地域の暮らしを雪崩、土砂崩れから守る役目もあった
- ・現在、茅葺き屋根の新築は消防法の不燃対策で禁止。また寒さ対策で家の周りに茅を立てて囲う暖房も禁止
- ・「茅」と言う植物は存在せず、屋根を葺くのに用いる草本の総称。
- ・カリヤスとススキの違いは、ススキは小穂の基部に長い毛があり、背がカリヤスより高い、茅は断面にスポンジ状の空芯がある・・・以上が基調講演の内容でした。

研究報告「茅を育て、文化を守り伝える草原～信州小谷村、牧の入り茅場から～」では、信州大学教授：井田秀行さん（森、草原、人との関わりを生態学的に追求）から、江戸時代から火入れで維持されている貴重な草原（牧の入茅場）の紹介がありました。ススキに似たカリヤスを茅として現在も伝統建築に供給する重要な役割を果たしている。この茅場の生態系について、火入れした場所としない場所の植物の比較、火入れした場所の地表の温度、動植物の影響等を科学的に分析、研究した内容の発表がありました。また、カリヤスの茅場については長野県小谷村、富山県南砺市（五箇山）、岐阜県白川村（白川郷）福島県南会津町（鉢山）となっている。また、火入れすると CO<sub>2</sub> が削減されることが確認実証できたそうです。以上が研究報告の内容でした。

その後の分科会では、4 つの分科会がありました。

#### 【第 1 分科会】草原の生物多様性

信州大学教育学部教授：井田秀行さん、東京大学農学生命科学研究科：高橋菜さん

#### 【第 2 分科会】茅刈りと茅葺きを未来につなぐ

日本茅葺き文化協会事務局長：上野弥智代さん。発表者は松澤朋典さん（茅葺き師）

#### 【第 3 分科会】草原の管理技術を学び伝える

東京農大地域環境科学部教授：武生雅明さん、親沢北観光委員会：栗田優さん、雨中林野組合：荻澤隆さん

#### 【第 4 分科会】草原資源を地域に生かし、次世代につなぐ

東京農大地域環境科学部教授：町田玲子さん。小谷中学校 3 年生（草原での野外学習・学びの成果を発表）

私と家内は第 2 分科会に参加し、日本の多様な地域性を持つ茅葺きと茅刈りについて学んだ。乙女高原でもかつては茅刈りして、茅を有効利用していた。現在は遊歩道に敷いて茅を利用している。もっと茅が有効活用出来ないか興味があったので第 2 分科会とした。小谷村の「雨中（うちゅう）シヨクの茅場」（文化庁ふるさと文化財の森）は、かつてはスキー場だった場所。乙女高原と同じではないかと脳裏に浮かぶ。乙女高原とは違い草刈りは行わず、毎年火入れを行っている。13ha あり、火入れ参加人員は約 10 名位。牧の入茅場（30ha）ではカリヤスを刈り茅葺き屋根に利用。地域の若いお母さん達とボランティアで来る学生さん達により刈り取り、カリヤスを刈り終えた後、火入れする。現在はカリヤスを束（直径約 25cm 位）にして乾燥。穂が無いものを刈り取ると、乾燥すると水分が抜けないでカビ等が発生し、屋根には使用出来ないとのこと。無料でカリヤス提供して下さる個人の茅場もあるが、1 束 150 円から 500 円で購入して茅葺き屋根に利用している。

九州から参加された方から「茅を買ってはいただけじゃないか」という質問。対して「輸送コストがかかるので検討する」とのこと。参加した大学生が茅刈りをスポーツとして行うことを検討しているとのこと。山梨から参加の方が草刈り体験ツアーを検討して欲しい。コロナ前は行っていた。以上が分科会の内容でした。

2 日目は現地見学会でした。白馬アルプスホテル前に 8 時 30 分集合。8 時 40 分に小型バス 4 台に分乗して雨中（うちゅう）シヨクの茅場に向かいました。東京農業大学の武生先生から茅を焼いている草原の土壌（黒ボク土）について説明があり、当日 1m×1m、深さ 1m を掘って、土壌（黒ボク土）を観察しました。火入れの炭が炭化して黒くなった説、火山灰が積もって黒くなった説があるようですが、定かでないようです。乙女高原も案内人養成講座で、時田 恵さんが乙女高原の草原の土をスコップで堀り、黒ボク土を説明をして下さった時は火山灰と言っていました。

スキー場の取り付け道路沿い両側約3mはススキが、それ以外はカリヤスが生い茂っていました。人間の環境破壊はススキを運んで来たようです。良質のカリヤスを育てるため、毎年増えているヤマハギを抜いて駆除しているそうです。荻澤さんから火入れの方法、管理技術のお話を聞きました。

また、牧の入り茅場（文化庁ふるさと文化財の森）では茅刈り体験学習をしました。この茅場は3集落共有で管理され、茅の採集がユネスコの世界無形文化遺産に登録されています。地元の田原さん、中村さんの指導で茅刈りを体験しました。地上部が枯れた後で刈らないと耐久力が大きく低下するため、10月下旬から11月上旬の2週間が刈取りの適期。1束(直径約25cm)が集まったら6把ずつまとめて、三又を二つ有したテントのように結って乾燥させる。頂部は折り曲げて雨の侵入を防ぐ。こうして茅を乾燥させた後、屋根材として使う。刈り取り時、ススキはカリヤスと区別して刈り取る。その後、火入れを行う。貴重な体験でした。

宝旧千國家住宅（牛久宿）で茅葺きの実習も行われました。千国街道（塩の道）沿いで体験学習用茅葺き屋根の刈り込み実習を茅葺き師・松澤さんの指導のもと、みんなで行いました。刈り込みは結構難しく、下から上にハサミを入れるのですが、途中で止めるとエビ型に跡がついてしまいます。一気に刈り込み、終了間際に途中でハサミを止めると綺麗に仕上がります。皆さん楽しくやっていました。実習終了後、宝旧千國家住宅を見学して全てのプログラムが終わり、バスでサミット・シンポジウム会場に戻り、解散となりました。

## 【参加報告】

# 日本高山植物保護協会 35周年/NPO法人 20周年記念シンポジウム

10月27日（日） 記事：植原 彰

植原が参加させていただき、乙女高原ファンクラブの活動を報告する機会をいただきました。岩科会長をはじめ日本高山植物保護協会の皆様には、乙女高原ファンクラブの活動発表という貴重な機会を作ってください、深謝します。また、壇上で発表された皆さんのお話をお聞きし、正直すごいと思いました。そして、ファンクラブの皆さんにもお伝えしたいと思いました。以下、発表への植原のコメントを書かせていただきます。

### ●国立科学博物館 筑波実験植物園の遊川知久さん

植物園で具体的にどのような種の保存・保全のための研究・実践が行われているか知ることができました。まずは育てる技術を得ることが必要なんですね。野生復帰に成功した種もあったとのことですが、野生復帰のためには絶滅危惧種が生息場所の生物多様性の輪の中に組み込める必要があります。具体的には虫媒花であれば花粉を運んでくれる昆虫がいるのか、また、他動物に種子散布されている種であれば、その動物がいるのかなど、生息地の環境が整っているかを見極め、もし足りていなかったら、それを補っていかねばなりません。これはもう息の長い忍耐強い研究・実践になることは必須です。本当に大変な仕事だと思いました。

### ●東京大学 大学院総合文化研究科の池田 啓さん

「北方からやってきて、高い山に取り残された植物が高山植物である」というのは、とても筋の通った話です。それなのに、「本当にそうなのか」と疑問を呈されたところがすごいと思いました。常識も疑わないとダメなですね。最近のDNA解析によって植物も動物も系統関係が刷新されてしまっていて驚いていますが、そればかりでなく、「日本から北上した高山植物もある」ということの証明までできるとは。まさに目が点でした。

### ●「葦毛湿原」豊橋市文化財センターの贅 元洋さん

湿地の生物多様性の保全に考古学の発掘調査が応用できるとは。まさに異業種交流だと思いました。湿地再生のために埋土種子を掘り起こして活用するのですが、その際、発掘調査のノウハウが使えただそうです。また、保全のための資料として古文書を使っているのが、とてもうらやましいと思いました。「今」の自然は「歴史（おもに土地利用）」の積み重ねの上にあります。だから、歴史を知らないことには、現在の自然の状況について、とんだ勘違いをしてしまう可能性があります。とはいえ、私は歴史素人です。どこをどう探したら、乙女高原に関する古文書に出会えるか知るすべが判りません。

### ●「小笠山」小笠山を愛する協議会の瀧本 健さん

瀧本さんのお話で印象的だったことは、自然保護問題に真っ向から取り組んでいることです。とはいえ、「工事現場の見えるハイキング」という、ちょっと遊び心が感じられるような取り組みは、一般市民も受け入れやすいと思いました。風力発電問題に悩まされておられるようですが、風力発電をストップさせた事例はあります。 ※例えば山形県鶴岡市の事例。左 QR コードは市民団体からの要請、右は企業の事業撤退



### ●「玉原高原」利根沼田自然を愛する会の二川真土さん

玉原高原には私も一昨年お邪魔して、二川さん他の皆さんの案内で一日歩いてきました。玉原高原の魅力もさることながら、玉原高原が大好きで、大事にしたいという人たちと一緒に過ごす心地よさを感じました。玉原高原を大事にしたいという皆さんの気持ちを二川さんが上手にコーディネートして具体的な活動に落とし込んでいるな、しかも、それが年々深化・進化していて、すごいと思いました。今後とも科学に基づいた活動、



市民を巻き込んだ活動をますます仕掛けていただきたいと思いました。

### ●「三ツ峠」三ツ峠ネットワークの中村光吉さん

「毒草によって死んでいるシカをよく見かける」というお話はショッキングでした。というのも、シカは草食動物とはいえ、消化は胃の中の微生物が行っています。微生物はライフサイクルが短いので短期間で変異株が出現したり、あるいは、食べ物の変化によって微生物叢自体が変化する（たとえば食べ物の成分によって微生物の比率が変わる）ことが予測されます。ですから、他の食べ物が無くなって、今まで食べてなかった植物を食べざるをえなくなっても、胃の中の微生物叢がそれに適応していくのではないかと考えていました。また、乙女高原では、シカの食害が問題になる前から、シカはトリカブトを食べていたと思います（食痕がありました）。つまり、シカは毒草であるトリカブトも上手に食べているのではないかと考えていたので、「大人のシカは大丈夫でも、その年生まれのシカは毒草が原因で死んでしまう」という仮説はショッキングでした。死因が特定され、それが毒草によるものであると証明できたら、すごい報告になると思います。

### ●「南アルプス（静岡県側）」静岡県立農林環境専門職大学短期大学の鶴飼一博さん

写真を見比べることで、まさに一目瞭然。とても説得力のある報告で、思わずうなづいてしまいました。高山帯にシカ柵を設置する苦労はいくら想像しても足りないほど大変だと思います。それでも鶴飼さんが、途中で投げないで20年間続けてこられたのは、実際にシカ柵を作ると、その効果と課題が事実として突きつけられるからではないかと思いました。目に見える効果があったら、やる気も高まりますものね。

乙女高原でも全長約1km、包囲面積約6haのシカ柵を2015年秋に設置していただきました。設置前2015年夏に草原の6haでたった18輪だったアヤメの開花数が、2023年には3610輪になりました。このように成果が目に見えると、モチベーションも上がります。ですが、同時に外来種であるメマツヨイグサやヒメジオンまで増えてしまい、人力で駆除作業をしています。ここ2~3年、遊歩道に大きな株のオオバコが目立つようになり、新たな脅威を感じます。

皆様、貴重なお話を聞かせてくださり、本当にありがとうございました。今後とも交流・情報交換をよろしく願います。

## 重要 2024年度定期総会のご案内



今年も定期総会の時期になりました。総会では今年度の活動を振り返り、来年度の活動計画を話し合います。「次の世代に引き継いでいくにはどのような活動を行うことができるのか」様々なご意見をいただきたいと思います。この会報に総会へ

の出欠ハガキ(委任状を兼ねる)が同封されています。現時点での予定で結構ですから、必要事項をご記入の上、早めに投函してください。

3月16日(日)  
午後2時~  
山梨市役所 牧丘支所

なお、今年は世話人の改選があります。乙女高原の活動に興味のある方、一緒に活動したい方、ぜひ立候補をお願いいたします。

## \*\*\* お知らせ \*\*\*

### ◆「第6期 乙女高原案内人養成講座」のご案内

今年度は16年ぶりに「乙女高原案内人養成講座」を開講し、23名もの新しい案内人が誕生しました。そしてさらに活動を充実させるため次年度も講座を開催します。乙女高原を知り、守り、そして伝えるノウハウが満載の講座です。これを機会に、ぜひ、乙女高原のことを知り、ファンになり、そして、乙女のことを伝えるメッセンジャー・インタープリター・案内人になってください。

※詳細は同封のチラシをご覧ください

### ◆乙女高原自然観察交流会(3月)

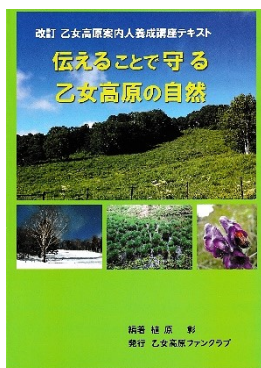
日時：3月1日(土)

集合：9:00 道の駅「はなかげの郷 牧丘」(乗り合わせて高原に向かいます)

持ち物：弁当・水筒・観察用具・防寒着 (雪の状況によっては長ぐつ)

# 乙女高原ファンクラブの事務局だより ※ML568号まで掲載済

●多くの方の記事を載せることができた今号の編集は鈴木辰三、校正は井上敬子さん・植原 彰さんが行いました。その後、三枝かめよさん・芳賀月子さんの印刷、岡崎文子さんの発送作業を経て、皆さまのもとに届けられます。



## 乙女高原ファンクラブの刊行物

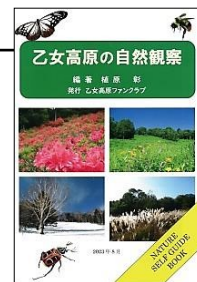
←乙女高原案内人養成講座のテキスト

### 『伝えることで守る 乙女高原の自然』

(A4判 270頁 2024年)モノクロ。2006年テキストの増補改訂版。頒価 1,500円。送料は1~2冊 430円。送金は郵便振込・ゆうちょ銀行で。

乙女高原を歩く際のお供に『乙女高原の自然観察』→

(A5判 30頁 2023年)オールカラー。1ページに1テーマ。頒価 300円。送料は1冊:180円、2~8冊:210円。送金は郵便振込・ゆうちょ銀行で。



乙女高原とファンクラブ11年間の集大成『乙女高原大百科』→

(A5判 602頁 2013年)乙女高原メールマガジン11年間の中身を編集した厚さ3cmの本。一部カラー。頒価 2,000円。送料は1・2冊なら 430円。送金は郵便振込・ゆうちょ銀行で。

乙女高原フィールドガイド シリーズ ……欲しい方は事務局までご連絡ください



フィールドガイドⅢ スミレの観察のおともに

### 『乙女高原のスマレ・ウォッチング』

→在庫切れ

フィールドガイドⅡ

マルハナバチ観察と調査のおともに

### 『マルハナバチ ウォッチング 改訂新版』

フィールドガイドⅠ

春から夏にかけて咲く草花のガイド

### 『乙女高原のお花たち 第三版』

いずれもA3判。両面カラー。折りたたみ済み。ポケットに入れられるサイズになっています。

## ■乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

『数は力』という側面もあります。ファンクラブの会員が多くなれば、それだけ乙女高原の保全に対するファンクラブの発言力が増します。まわりの方をファンクラブに『巻き込む』ことも乙女高原を守る活動の一つです。まわりの方にファンクラブをお勧めください。

乙女高原ファンクラブに入会するには… 「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」というファックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。

- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。

今号は普通会员のみにお送りしています。

## ■乙女高原ファンクラブへの連絡先■

【事務局】植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL 090-7246-8625 FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

※会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>



●郵便振込● (番号) 00220-8-71093 (加入者名) 乙女高原ファンクラブ

●ゆうちょ銀行●店名: 029店「当座預金」番号: 0071093 加入者名: 乙女高原ファンクラブ



ホームページ



観察ブログ



活動ブログ



FB 乙女高原後援会